

文部科学大臣 萩生田光一 様
文化庁長官 宮田亮平 様

文化庁はあいちトリエンナーレへの補助金不交付を決定しました。しかし、あいちトリエンナーレへの脅迫行為は、排外主義的な動向の高まりに基づいた暴力であり、トリエンナーレ側はそのようなテロ行為の被害者です。今回の文化庁の決定は、被害者に対する更なる暴力であるだけでなく、テロ行為の容認であると同時に、表現に関わる者たちを萎縮させるための見せしめとなっているということは、他の多くの方々がおっしゃっている通りです。

私は東京都の学童保育で非常勤の職員をしています。先日、小学二年生の子どもから「韓国は日本が嫌いなんじゃない？」と問いかけられました。子供からそのようなことを聞かれたことに唖然とし、その場では、「そんなことはない。もし君が誰かにそんなことを言われても、それは嘘だから信じないでほしい。」と無責任な返事をするしかできませんでした。

別の日に、とある歴史博物館へ訪れた際には、床の上に世界地図が描かれている展示室で、校外学習中の小学校高学年の数名が朝鮮半島を何度も踏みつけながら、差別的な言葉を口にして遊んでるのを目にしました。

排外主義に基づく所謂「謙韓」と呼ばれる動向の高まりは、当然今に始まったことではありませんが、数年前から子供たちと接する仕事をするようになってから、そのような動向が子供に与え影響を与えていることを肌で感じるようになりました。このようなことが起こっているのは大人の責任です。それは私やあなたを含む社会全体の問題で、私にもあなたにも責任があり、私たちには差別/偏見/暴力のない社会にするための努力が求められているはずです。

今回の文化庁の決定は、排外主義的動向を後押しし、さらに子どもたちに対しても悪影響を及ぼすものになることでしょう。私は今回の文化庁の決定に強く抗議し、撤回を求めます。

宮川知宙
2019年10月7日